

○令和2年度 教育事業

「子どもたちのワンダーランド（日帰り編）」(R3.3.20（土）・21日（日）)

令和2年度国立大雪青少年交流の家教育事業

子どもたちのワンダーランド

日帰り編

友誼を
深める
交流の家の
大冒険

日程
①3/20(土)
②3/21(日)
各日 10:15~15:00

対象・定員
小学3~6年生の
2名以上のグループ
各日20名

冬はもうすぐ終わり...じゃない!
まだまだ冬の思い出を友達と一緒に作ろう!
午前は、冬の道具を使って、坂をすべったり、
雪の中を探検したりするよ。
午後は、焼き板で写真立てを作って、思い出を飾ろう!

独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立大雪青少年交流の家
National Taisetsu Youth Friendship Center 詳しくは裏面をご覧ください

◆目的

○交流の家のプログラム体験を通して、仲間との協調性を養うとともに、一緒に活動する楽しさを体感してもらう機会とする。

◆参加実績（定員各日20名5グループ）

20日 参加15名
21日 参加11名

学年別内訳

| | |
|-----|-----|
| 3年生 | 12名 |
| 4年生 | 5名 |
| 5年生 | 9名 |

地域別内訳

| | |
|-------|-----|
| 旭川市 | 6名 |
| 美瑛町 | 11名 |
| 上富良野町 | 9名 |

◆プログラム

① 思いっきり雪遊び（90分）

前半は、スノーシューを履き、仲間と共に冬から春に移り変わってきている自然を感じるために、敷地内の森の中を探検した。真冬にはあまり見られなかったシカの食痕があったり、膨らんできている冬芽を観察したりするなど、自然を満喫することができた。

後半は、グループごとに、スノーチューブ滑りを行った。交流の家の坂を仲間とともに疾走感などを楽しんでいった。

② 焼き板クラフト（90分）

グループでの思い出を残せるよう、焼き板を使った写真立て作りを行った。板をじっくり焼き、キレイな焼き目をつけ、自分で好きな絵を描いたり、どんぐりや木の枝で飾り付けを行ったりし、同じ素材でも、それぞれの発想でオリジナルの作品が出来上がった。

◆事業運営・企画のポイント

○グループで活動するという意識を持ってもらうため、代表者による人数確認やお互いの安全をお互いに守ることなどを伝えた。



◆参加者の声

- 他の学校の子といっしょに遊べたのはとてもよかったし、学校でできる思い出とはちがう本当に良い思い出ができて本当に楽しかったです。
- 最初は外でスノーシューをはいて探検したり、チューブで遊んだりして午後からの写真たて作りもとても楽しかったです
- チューブすべりで友達と一緒に乗ったのも楽しかったし、スノーシューでも花のつぼみを見られてとても楽しかった。
- とても楽しくてまた来たいぐらいとても満足しました。
- もう少しチューブをしたかった、でも探検もチューブも楽しかった。
- また参加したいと思った。
- スノーシューが初めてだったので楽しかった。



◆事業の成果と課題

- ①活動を通して、グループと一緒に活動する楽しさを感じてもらうことができた。
- ②活動中には、お互いにあぶないと思ったことを伝えあったり、荷物を持ってあげたりするなど、協調する姿が見られた。
- ③スノーシューハイクやクラフト活動で、時間がなくなり急かしてしまう場面があった。プログラムに余裕を持たせ、参加者に十分な体験の時間を確保することが必要である。



| | | |
|--------|----|----------|
| ◆事業運営費 | 合計 | 79,800 円 |
| 消耗品費 | ・ | 77,240 円 |
| 通信費 | ・ | 2,016 円 |
| 燃料費 | ・ | 544 円 |